|  |  |
| --- | --- |
| 響流の森　だより　（園長室だより）　　 | 平成 30年12月17日附属幼稚園　第17号発 行 者　八谷俊一郎 |
| **好天に恵まれた餅つき会**　15日（土）早朝の幼稚園の園庭には、寒風が吹き、気温も2度と冷え込みが厳しいために、餅つき会を心配しました。しかし、陽が昇るにつれて気温も上昇し、風も収まり、穏やかな天気の中で、餅つき会を終えることができました。　年長の保護者の皆様には、子どもたちよりも早く登園し、準備から、餅つきなどすべてにお手伝いいただき、心より感謝申し上げます。今年は、仮設園舎でテラスがない上に、雨天が続いていたので、担当者は、晴雨を考えて、①湯を沸かす　→②蒸籠でもち米を蒸す　→　③臼まで運ぶ　→　④餅を丸める　→　⑤黄粉餅をつくる、までの活動と導線を考えた場所の選定に苦心したようです。　その結果、もち米餅の量を減らし、臼の数を減らすことで、お手伝いの方も年長さんの保護者の方に限定したようです。その結果、餅をつかれるお父さん方にとっては、かなりハードだったようで、餅をつく順番がすぐに回ってきますから、回数が増えるごとに、腕をさすったり、椅子にしゃがみ込んだりして疲労の様子が窺えました。しかし、できた餅は最高の出来栄えで、子どもたちは美味しいと言って口いっぱいに黄粉餅をほおばることができたようです。教頭と私は、火の番で、準備から後片付けまでその場を離れることができませんでしたから、子どもたちの喜ぶ様子を見ることができませんでしたが、年長さんに、蒸籠で蒸しあがったもち米をほんの一口ずつあげると「美味しい、美味しい」といってくれました。また、でき上がった黄粉餅についても、年中さんでも7個食べた、10個食べたという声が聞かれました。F:\2018-12-15 もちつき\もちつき 045.JPG | 焼きたての芋にご満悦F:\2018-12-14 焼き芋パーティー\焼き芋パーティー 003.JPG　12日に予定していた焼き芋パーティーを雨のために14日に順延しましたが、今年も、子どもたちに美味しい焼き芋を食べる経験をさせることができ、ほっとしました。子どもたちが、当日までに集めたたくさんの落ち葉や枯れ枝を利用して、焚き火をしました。美味しいお芋を食べたいという子どもの思いが籠っているのでよく燃えました。毎年のことですが、落ち葉と枯れ枝や木材、芋の置く場所、芋を置く時間等をどのように組み合わせると、F:\2018-12-14 焼き芋パーティー\焼き芋パーティー 024.JPGいい焼き芋ができるのか考えさせられます。残り火（余燼）で焼くと、焼き加減が手ごろで美味しい焼き芋ができるとはわかっていますが、200個以上の焼き芋を11時までに食べさせるように焼くのは一工夫が必要です。今年は、初めての試みで、もみ殻を使ってみました。初めは空気が入らず、せっかく起きた火が消えてしまう失敗もありましたが、もみ殻に火が回ると、いい感じの焼き芋ができました。来年はもっと上手に焼けるかな？お詫びします。園歌のタイトルに誤り　前号で紹介しました幼稚園の歌の大切なタイトルに、誤りがありましたので、訂正致します。×「みんなのたからもの」は誤りです。○「みんながたからもの」が、正しいです。同じ格助詞でも「の」は「たからもの」を強調することになりますが、「が」は、主語である「みんな」つまり、子どもを強調しています。松井先生は、「子どもたちの宝物は、身近にたくさんあるけれども、子どもたち一人ひとりが本当の宝物だよ」との気持ちで作詞されたと思います。「の」と「が」では大違いで、「が」とすることで深い意味を持たされた先生の意図に反して、誤記をしたことを深く反省し、お詫び致します。作詞された先生の深い思いについては、2月に発行されます学園報で詳しく紹介されますので、楽しみにお待ちください。 |